



さよなら

まめなけ新聞

第32号 令和2年3月1日

最終号

ありがとうございました

ご協力いただいた町民の皆様方



※写真を掲載できなかった方々、申し訳ありません...

「まめなけ新聞」について

岩田嘉信



県外からこの富山県、朝日町の地域おこし協力隊に応募して実際に活躍されている方がおられることをこのまめなけ新聞で知りました。朝日町に移住し、三年間の任期の間にさまざまな活動をされている姿を活動報告冊子2017、2018を読んで知りました。隊員の皆様方の情熱に大変感動しております。

朝日町に住んでいる人以上に笹日町の素晴らしさや地域の隠れた魅力を伝えてくれる回覧板「まめなけ新聞」を毎月楽しみに待っております。

取材担当の横山理恵さんの独特な編集の表現や、ずっと朝日町に住んでいたのに知らなかったことなどを写真やインタビューで分かりやすく表現されている点がとてもよかったです。3月号で廃刊となってしまはうはとても寂しいですが、三年間ありがとうございました。お疲れ様でした。

「消えてたまるか！朝日町」の連載も「まめなけ新聞」も全てファイリングして下さっています。



毎月いち早く最新号を取りに来てくださった岩田さん、大変だった新聞制作を続ける励みになりました！



3年間「まめなけ新聞」を陰ながら支えてくださった館印刷様にも心より感謝いたします。

私が協力隊の活動として、このまめなけ新聞（回覧板新聞）をやるうと思っただのには理由があります。それは、私の地元愛知県で暮らす、御年八十八歳になる祖母の存在です。祖母の大切な情報源と言えばテレビとラジオ、そして回覧板です。高齢と糖尿の関係で目も見えづらくなっていますが、虫眼鏡を駆使し回覧板を隅から隅までチェックしています。そんな祖母は私よりも情報通。そして口癖は「刺激が欲しい。」です（笑）

足も悪く、出歩くことが難しくなっているそんな祖母の言葉を思い出し、朝日町のおうちで過ごすことが多くなっているご高齢の方々に、少しでも「刺激」「娯楽」「情報」が伝えられたなら、私の協力隊としての活動は有意義なものになるのではないかと考えたからです。

こういった活動は実績（数字）が出にくく評価はされにくいですが、この活動を通し、たくさんの方々とご縁を持てたことは私にとって財産であり、これから朝日町で定住していくための自信となりました。

時にはわがままを言い取材させていただいたこともあります。アポもとらず押しかけたこともあります。印刷の納期も毎回ギリギリでした。そんな不躰な私に町民の皆様は温かく対応してくださいました。本当に**感謝の気持ちでいっぱい**です。

朝日町には自然はもとより、それ以外の資源もたくさんあります。それは町民の方々の朝日町を愛する個々の活動です。今後は私も朝日町の一町民として朝日町を楽しみ、満喫し、地域のためになる活動をしていけたらと思っています。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

朝日町地域おこし協力隊・横山理恵